

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2790800136		
法人名	社会福祉法人 浪速松楓会		
事業所名	グループホームサボテンの花		
所在地	大阪市東住吉区西今川4-22-11		
自己評価作成日	平成 28年 1月 5日	評価結果市町村受理日	平成 28年 3月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2790800136-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夕食後に入浴希望者は実施させて頂き、全利用者様週3回の入浴に取り組んでいる。屋上菜園にて利用者に出来た野菜の収穫をさせて頂き、職員と共に調理している。外出行事にも力を入れており、気候の良い日は近隣のスーパー等に外出し、おやつの買い出しを実施している。季節に応じた行事(春は遠足、夏は夏祭りに参加、秋は敬老会、冬はクリスマス会等)を行い、四季を感じて頂く様対応している。利用者様の異常の早期発見に努めており、些細な状態変化があれば、直ぐに看護師やかかりつけ医に報告している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各種の介護保険事業を総合的に運営する社会福祉法人が約4年前に開設したグループホームで、同じ建物内に小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。ホームは町内会に加入して、地域の行事に積極的に参加し、合唱や紙芝居、手芸などの地域のボランティアも受け入れて、利用者の楽しみになっています。職員が毎月、利用者の健康状態や暮らしぶりを手紙にし、写真をつけて家族に送付していることが、家族の大切な情報源で安心材料になっていて、家族の評価を得ています。利用者は好みの料理や屋上の家庭菜園で収穫した野菜を使った季節の料理など、美味しい食事と信頼できる医療体制に支えられ、安心して生活を過ごしています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【利用者がその人らしい生き方、暮らし方が出来て、利用者の心に花が咲くように温かい心を持ち続けて利用者を支援します。】を事業所理念として明記している。職員は、地域密着型サービスの意義を踏まえて理念を具体化し、【利用者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることを支えます。】とパンフレット等に表記して、地域との連携づくりに取り組んでいる	「利用者がその人らしい生き方、暮らし方が出来て、利用者の心に花が咲くよう温かい心を持ち続けて利用者を支援します。」を理念と定め、明示しています。定例のフロア会議や行事担当者会議、業務担当者会議、日常の業務等を通じて職員が方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族や地域の方と共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、中井神社の夏祭りや盆踊りなど、地域行事には出来るだけ積極的に参加し、地域振興センターが運営するふれあい喫茶にも出来るだけ参加を促している	天気の良い日には近くの商店街へおやつを買いに出かけ、近所の公園へ散歩などして、地域の人たちとは顔なじみになっています。町内会にも加入、地域の一員として、積極的に神社の夏祭り、盆踊りなどに参加し、定期的開催される地域振興センターのふれあい喫茶[レモン]にもよく出かけています。地元のボランティアグループの合唱や紙芝居を楽しんでいます。専門学校生、高校生などの介護実習も受け入れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援について運営推進委員会の委員や地域包括支援センター職員を通じ地域の人たちに伝え、認知症の人に対する方法を知って頂ける様努力している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4土曜日に定期開催しており、参加者は、利用者、家族、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、グループホームについての知見者を選定している。会議では、ホーム職員が利用者の状況や行事、事故(対策)、苑内研修、人事異動、介護保険法改正の等報告を行い、運営の問題点や良かった点等も報告している。また、感染症対策や地域交流等についても議題にし、委員からの意見や助言をして頂いており、出された助言等は、ホーム運営に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催し、議事録を作成しています。会議には利用者、家族、地元町内会長、民生委員協議会委員長、社会福祉協議会会長、地域包括支援センター職員、の出席を得ています。ホームの状況、行事・活動報告、事故報告、研修報告、今後の予定等を議題にし、さらに感染症対策等も話し合っています。広報誌「サボテンの花だより」紙上で、利用者、家族に対して運営推進会議に出席を呼びかけています。出席者の意見はホームの運営に反映させています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者には、諸問題を話し、相談に乗ってもらっている。大阪市福祉局 高齢者施策部介護保険課(指定・指導グループ)には、施設運営上の疑問点等があると問い合わせにてご指導頂いている	区職員や地域包括支援センター職員とは、報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。管理者や職員は、区のグループホーム連絡会の見学会や昼食会などに参加し交流しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム運営規定に身体拘束を行わない方針を明記し、職員に方針を徹底している。職員は「身体拘束を行わない方針」を相互に確認し合い、利用者の安全を守りながら自由な暮らしができるように取り組んでいる。ユニット玄関、各階のエレベーター、居室のベランダの出口等については、安全確保の為に施錠している現状であるが、開錠に向けて運営推進会議にて都度検討実施している</p>	<p>職員は法人の研修会で、身体拘束や人権について研鑽し、意識を高めて身体拘束のないケアに取り組んでいます。フロアドアとエレベーターの開錠については、管理者は日中の可能な時間帯から開錠することを考え、運営推進会議の理解を得るため懸案事項として話し合いを続けています。当面、外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待は絶対にあってはならない事を職員一同が信念を持って取り組むよう心掛けており、在宅で家族からの虐待はないのかCWと気づきを話合う。都度ミーティングのなかでも体制の整備や虐待防止のための関連法について研修する努力を行っている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人内外の研修に参加を促し、大阪市権利擁護サポート事業がある事を職員に周知している。利用者の状況に応じて情報提供し活用の検討を図っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、重要事項説明書を読み、説明を行い、その内容を十分理解して同意頂いた上で契約の締結をしている。なお、契約に関する疑問点等があれば、納得して頂く様説明をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回利用者の体調、入浴、外出、食事、夜間の睡眠、レクリエーション等について書面にし、家族様に送付している。家族が来られたら管理者や職員は出来る限り面談し、利用者の近況を報告し、家族からの要望があれば十分に聞き取り、対応可能な内容であれば実現している	家族の訪問があれば管理者や職員はその都度できる限り面談し、利用者の状況を報告するとともに、家族の意向や要望を聞き取るようにしています。聞き取った意見等は、すぐ対応、あるいは、職員間で共有してサービス向上に活かしています。事業所は毎月写真入り広報誌「サボテンの花だより」の他に、利用者個別の「1ヶ月の様子」、健康状態、食事、入浴、夜間睡眠、外出等の状況を担当者が書面にし、利用者の写真を添えて家族に送付し、家族から利用者の様子がよく分かると喜ばれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者出勤時はフロアーに行き、職員に都度声を掛け、現場の状況や意見を聞くように心掛けている。必要に応じてリーダーと会議を行い、運営に関する意見交換を行い、施設運営に反映している。個人面談が必要な職員がいれば都度実施している</p>	<p>職員は、定例のフロア会議や行事担当者会議、業務担当者会議等を通じて、意見や提案を出しています。ただ、管理者は、利用者の重度化が進み、高い職員の離職率と新規職員の採用が難しいなか、積極的に現場に溶け込み、ベテラン職員と共にチームワークの向上や介護技術の向上などに取り組み、家族の評価を得ています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、リーダーや管理者から提出された人事考課を公平に分析し、経験、実績を加味して給与、賞与に反映している。職員の労働意欲を削ぐ事がない様、向上心をもって働ける環境づくりに心掛けている。賞与とは別に目標達成度賞与があり、職員自ら立てた目標が達成出来ると、年に1回賞与が与えられる</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は年間計画表に基づいて行われ、参加者には研修報告書を提出する事で手当が支給される。参加出来なかった職員には、当日の資料及び研修報告書を回覧し情報共有に努めている。代表者は年2回の人事考課の内容から職員の能力を把握行い、管理者が職員のスキル等を考案し、適宜外部研修への参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉区のグループホーム連絡会に入会し、参加職員が情報交換を実施している。他施設への見学会や、取り組み等について学んだ事を現場職員に伝える事で、サービスの質の向上に努めている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前には本人のアセスメントを行い、本人、家族の困っている事、不安要望を聞きとり、本人、家族が何でも話せる様な関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族が在宅介護にて困っている事、不安な事、要望等を十分傾聴し、必要に応じて情報を提供している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人の意向、家族の要望等を勘案して、基本的には在宅サービスの継続を勧めるが、在宅生活継続不可であればグループホームに入所すべきかどうか十分に検討し、利用する事を提案させて頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活習慣や価値観を尊重し、寄り添う介護を心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者の絆を大切に保って頂ける様潤滑油となり、家族の支援を行っている。利用者が望む生活を安心して送る事が出来る様家族の協力も得て関係を築く様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が住み慣れた地域との繋がりを大切にし、途切れる事が無い様、近隣との連携を図ったり、馴染みの商店街へ買い物に行ったりしている。近隣の神社には夏祭りや初詣に参加し地域との交流に努めている	利用者は近隣の神社の夏祭りや初詣に出かけています。また、地域のふれあい喫茶や行事に参加をしたり、商店街の馴染みの店で買い物をするなど、職員は馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に会話に加わり、人間関係が円滑になる様援助している。また、レクリエーション等を通して利用者同士が必然的に会話をする様な機会を設けている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約が終了しても、ご相談等の連絡があれば都度対応している。状況に応じて、入所先を面会に伺う事もある		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成前には必ず本人、家族の意向を聞いている。また、日常生活の中で本人とのコミュニケーションを密に行う事で意向を把握する様にしている	職員は、毎日の暮らしのなかで利用者や家族から聞き取った思いや意向を記録し、モニタリングやカンファレンスで確認して、介護計画に反映させています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報提供を基に、本人とのコミュニケーションを通してより詳しい生活歴、趣味、嗜好等の把握に日々努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後1か月は本人の状態を把握するためにも記録をより密にとっている。そうすることで、本人のADLや様子を把握し、個別介護が出来る様努力している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人、家族からの課題の聞き取りを実施している。また、かかりつけ医、看護師、介護職員共に連携し、本人の現状に即したケアプランを作成し、実行している	介護計画は6ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は、日々の利用者の状況を確認して記録し、計画作成担当者は毎月モニタリングを実施して、介護計画の見直しにつなげています。ただ、介護計画の個別援助項目に焦点をあてた日々の職員の介護記録やモニタリング結果がない状態になっています。	介護計画の個別援助項目について、職員へ周知徹底するよう、職員によるモニタリングの実施を前提とし、記録しやすい様式にすることが望まれます。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に介護計画の援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて、日々記録するなどの方法を検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあれば介護支援専門員に都度報告している。些細な状態変化があれば詳細を記録する様徹底している。毎月記録を基に月間モニタリングを実施しており、見直しを実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム利用を希望された家族にも法人内での対応出来るサービス及び在宅生活での継続についての他の介護保険上のサービス利用も都度説明している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	東住吉区の地域包括支援センターを把握しており、本人にとって必要な事があれば直ぐに地域資源を発掘出来る環境にしてある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用時に本人、家族の要望を確認し、希望される医療機関で適切な医療が受けられる様支援している。利用者、家族の希望があれば、ホーム提携医師の訪問診療を受ける事が出来る旨説明している。その際には、元々のかかりつけ医師から診療情報提供書を受けとり、治療方針の継続を図っている</p>	<p>家族の承諾を得て、大半の利用者が協力医療機関の医師から月2回の往診を受け、併設する小規模多機能事業所の看護師と協力医療機関の看護師から、看護を受けています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても体制を整備しています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>提携医療機関の看護師が1週間に1度定期訪問し、日常の健康管理を行っている。日々の生活の中で異常や問題に気づいた場合、24時間、看護師と連絡が取れるオンコール体制をとり、適宜訪問したり、かかりつけ医から指示を仰いだりしている。また小規模多機能型居宅介護配属の看護師により、事業所の取り組みとして同等の対応を実施している</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院が必要な場合は、担当医から症状や病状に応じた病院の紹介を受けたり、相談等が出来る体制にしている。また、入院した場合は定期的に介護支援専門員や管理者が病院に行き、本人の状態を把握に努め、早期退院に向けた情報交換を病院関係者と行っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に重度化における指針を説明し、書面で渡している。その際要望を家族から聞いているが、実際に重度化した場合及び重度化する可能性がある場合は、必ず家族とまず事業所として対応が出来る事を説明し、方向性を話し合っている</p>	<p>看取りを実施する準備はしていますが、これまでに看取りの実績はありません。利用者が重度化した場合は、状況に応じて特養等、法人全体で対応することを伝えていきます。今後、利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時は手順を各フロアに掲示している。応急手当や初期対応については法人内研修にて法人内の看護師に指示を仰いでいる</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回実施する事としており、夜間、昼間想定として各1回ずつ平成27年5月、11月に実施している。また運営推進会議にて実施報告を行い、事業所が地域で協力出来る事を報告している	年2回、夜間想定を含め消防署の指導のもと、火災・災害避難訓練を実施しています。災害時の食料と水の備蓄も実施しています。	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者が誇りをもってその人らしい生活を送る様にす為言葉遣いや対応の所作に注意している。職員の入職時には利用者に対する接遇に細心の注意を払う様指導しており、言葉遣いが悪いと気づいた場合その場で職員間同士注意出来る環境に出来るよう努めている。管理者も出来るだけフロアで仕事をし、気にかかる職員がいれば都度注意する様努めている	職員は年間計画に従い、法人の接遇や人権の研修を受け、意識の向上に努めています。職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮して、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定が出来る様な声掛けや対応を心掛けており、うまく自己表出が困難な利用者には選択肢を提示して対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人一人の生活リズムを大切にし、日常生活の継続を支援している。レクリエーションや行事は、利用者自身が参加するかどうかを毎回確認している。入浴は、本人の希望に合わせて夜間浴も実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやお洒落を継続出来る様に、化粧の持ち込み等を容認し、本人、家族の思いを尊重している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付け、調理段階の味付けの確認を利用者と共に実施している	利用者は一人ひとりの力を生かした役割を持ち食事を楽しんでいます。朝、昼の献立は食材会社からの食材により、職員がホームのキッチンで調理しています。利用者は野菜の皮をむく人、味見をする人、食卓を整える手伝いをする人など様々な役割を果たしています。調理者の動作を見ながら、食材の煮える音、揚がる音、匂いなど感じる事ができ、出来立ての食事を味わっています。夕食はチルド食を利用していますが、ご飯とみそ汁はキッチンで作っています。時には屋上菜園のお芋などの収穫が食卓に彩を添えることもあります。利用者の状況により、食材の刻み方を変える、とろみをつける、ミキサーを使う等食べやすくする工夫をしています。食事レクレーションとして、すき焼き大会、おやつレクレーションではチョコレートフォンデュ等、さらに利用者の誕生日には特別料理を楽しんでいます。季節の行事でお花見に出かけて、ファミリーレストランで食事することもあり、ホームでの食事はもちろん、様々な機会を作って食事を楽しむことができるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	最低1日1000cc以上は水分を摂って頂く様提供し、本人の禁止食や嗜好に都度対応している。誤嚥性肺炎等の予防を図る為、嚥下状態に合った形態での提供に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日毎食後の口腔ケアを実施しており、口腔内の清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者が自分で出来る事については極力見守りながら、状況に合わせて支援している。一人一人の排泄時間に合わせ、トイレ誘導を実施している	排泄記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者の仕草や表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りにより、トイレで排泄するよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	設備面で、排便時には、トイレ内のバーを使用する事で、体を前屈し、自然排便が容易になる様に工夫をしていると共に、かかりつけ医には排便状況を報告して下剤の調整をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や意向に出来るだけ沿って、曜日や時間帯を決めており、週3回の入浴を実施している。毎回入浴時は一人一人お湯を交換洗浄し、好みの湯加減で入浴して頂いている。入浴拒否される場合には対応する職員を変更するといった対応をし、本人の気分を損なわない様対応し、清潔が保てる様支援している	利用者は平均して週3回の入浴を楽しみ、希望者は夜間就寝前に入浴することもできています。菖蒲湯やゆず湯など、季節の行事風呂も実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや生活習慣を大切に、その人らしい生活を送れる様支援している。特に入床時間、起床時間については本人に合わせており、職員から臥床、離床の強要はしていない		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、本人の使用している薬や内服薬の用法や用量を理解して服薬して頂いている。また、一人一人の最新の薬情を保管しており、何か異常などがあれば直ぐに確認出来る状態にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意分野や好み等を把握し、其々に楽しみや役割を持って生活して頂ける様対応している。また、毎月最低1回は季節に応じた行事を行い、利用者からの要望の実現を図る様努力している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には毎日のおやつを決めておらず、職員と共に外出し、本人にその日のおやつを決めて頂いている。季節に応じて車で公園に外出したり、食事に出掛けたりもしている	天気の良い日には近所の商店街や神社によく出かけています。ホームでは毎日のおやつは決めず、利用者は職員と一緒に外出し、好みのものを買ってきています。振興センターのふれあい喫茶にも個別に出かけています。地域の行事である夏祭り、盆踊りなどに参加、季節により初詣、花見、紅葉等、車で出かけることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所内の金庫で預かっており、本人が希望すれば使える環境としており、必要な物品があれば、職員が付き添って買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	常に電話での連絡をとれる環境にある。本人から希望があれば葉書を用意し、書いて頂く事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは4階建てで1階に総合玄関があり、エレベーターを昇って2、3階部分が居住空間となっている。食堂兼居間には畳スペースがあり、利用者が横になったり、座って外を眺めたり、多目的に使える場所となっている。ソファやテレビを置き、ゆっくりくつろぐスペースも用意している。廊下には手すり洗面台があり、トイレは各階3か所設置し、天井には脱臭装置を取り付け、室内を清浄に保つ工夫をしている。屋上には利用者が楽しめる家庭菜園を設けている	玄関や廊下には、事業所名でもあり、「温かい心」の花言葉を持つサボテンや季節の花を飾っています。共有空間は明るく、壁面には、季節感のある手芸品で飾られたすだれがかかり、行事写真や書道作品、手芸作品、塗り絵、レクリエーション道具が置かれています。また、畳コーナーやソファが利用者の落ち着く居場所になっており、家庭的で温かくアットホームな雰囲気を醸し出しています。見晴らしのいい屋上には、家庭菜園が設けられており、季節の野菜を収穫して食事に花を添えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には畳を敷いたスペースにて、座ってお茶を飲まれたり、くつろぎながらテレビを見たりされている。フロアのテーブルには利用者分の椅子を用意しており、思い思いの利用が出来る様になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には電動ベッドとクローゼットが備え付けてあり、片麻痺がある場合にはベッドの位置を変更等し、利用者に安心して利用して頂く様配慮している。	居室には、整理ダンスや飾り棚、ドレッサー、椅子などの家具のほか、仏壇、花、自作の絵、手芸作品、家族の写真、ぬいぐるみ、時計、手鏡、テレビなど各自思い思いの品物を持ち込んでいます。利用者にとって、居心地良く過ごしやすい居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーの廊下、トイレ、浴室には適切な手すりを設置して安全を図っている。苑内では車椅子を極力使用せず、職員が手引きでの歩行介助実施し、歩行生活の継続を図っている。		